

優秀賞

ありがとう、エース

鹿児島県 枕崎市立立神小学校三年 馬場 亮輔

ぼくには、あこがれの人があります。その人は、ぼくのすむ地いき野球のエースで、体も大きく、うったボールは、ものすごく遠くまで飛ばすことができます。だから、「かっこいいな」と、ぼくは、いつも思っていました。

六月、夏休みにある少年野球大会にむけて練習が始まりました。その日から、ピッチングやバッティング、ぼくたちは、毎日のように練習を続けました。そして、試合まであともう少しという日。チームにとってシヨックな出来事がありました。エースが右手にけがをして、試合に出場ができなくなったのです。

ぼくの心は、エースが心配な気持ち、練習がつまらなくなつたという気持ち、試合にかちたいという気持ちでごちゃ混ぜになりました。でも一生けんめい練習をがんばるしかないと思いました。どのポジ

ションについても、みんなにめいわくをかけないようにするためです。みんな気合いでがんばっていました。

そして試合の日。ぼくはどきどきしていました。きんちょうで、手がじっとりしていました。ボールもすべるような気がしましたし、いやだなあ、やりたくないなあと思っていました。その時です。

「がんばれ。いつも通り。大じょうぶだよ。」
応えんせきから、大きな声が聞こえてきました。けがで出られなくなったエースの声でした。ユニフォームを着て、あついのに応えんのためだけに来てくれたのがうれしくて、「ありがとう。うれしい」と、心の中で言いました。

二試合目、ぼくはキャッチャーをしていました。一回の表からたくさん点をとられて、ぼくはもう、試合をなげ出したい気持ちでした。すると、またあ

の音が聞こえました。

「大じょうぶ、大じょうぶ。キャッチャー、ナイス
キャッチだよ。」

またまた大きな声です。それから、試合の間中ず
っと、みんなに声をかけ続けてくれました。まけて
いたので、みんな元気はなかったけど、その応えん
のおかげで、みんな声が出るようになりました。

だれよりも、自分が出たかったはずのし合で、ぼ
くたちを大きな声ではげまし、もり上げ続けてくれ
たエース。ぼくは、かっこいいと思いました。

ぼくは今まで、かっこいいというのは、し合で活
やくすることだと思っていました。だから、ボール
を遠くまでとばせるように、はやいボールをなげら
れるように、たくさん練習することが大切だと思っ
ていました。応えんは、めんどろでたいくつなこと
だと思っていました。でも、この夏、エースの声に
たくさんの元気をもらって、応えんの力を知りまし
た。大切なことに気づかせてくれたエースに、あり
がどうの気持ちで、ぼくのむねに広がっています。

